

株式会社 ファミリーマート 御中

タイ王国
子どもの溺死事故予防のための参加型教育教材開発事業

第1四半期報告書(2016年9月～2016年11月)



2017年1月
公益社団法人 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン



1. 事業概要

| | |
|--------|---|
| 事業名 | 子どもの溺死予防のための参加型教育教材開発事業 |
| 対象国・地域 | タイ王国 バンコク都 |
| 事業期間 | 2016年9月1日～2017年8月31日 |
| 報告期間 | 2016年9月1日～2016年11月30日 |
| 予算 | 11,697,084円 (当初予算 11,500,000円にインドネシア事業余剰金 197,084円を加算。 本文「3.現在の課題・変更点。」をご参照ください) |
| 受益者 | 直接裨益者: バンコクの小学校 2校に在学する生徒 2,200人、教員 50人 ¹ 間接裨益者: 約 7,800人(タイ南部パンガー県で実施されている溺死 予防事故事業の対象生徒・教員等) |
| 事業目的 | 子どもの溺死事故予防のために、子どもの声を活かした溺死防止教材 を開発し、当教材の普及拡大を目指す |

2. 活動進捗

当四半期は、事業実施における連携先となる政府機関、パートナー団体および学校等の特定と関係構築、また協力内容をめぐる打ち合わせを行いました。具体的には学校関係者や教育行政機関に加え、①公衆衛生省非感染性疾患局(国の行政機関で溺死予防に向けた啓発活動や水難に備えた泳法指導を所轄)、②タイ・ライフセービング協会²(水上安全に関する専門家を擁する団体)、③子どもの安全推進・傷害予防研究センター(Child Safety and Injury Prevention Research Center/CSIP)³との連携協力に向けた協議を持った他、④子どもから大人まで幅広い年齢層の教育グループ活動におけるデザイン・視覚的思考の応用等を手がける民間企業ブラック・ボックス社(BlackBox)と話し合いをもちました。

また当事業の対象地域であるバンコク、そして当事業の成果物となる教育教材の普及が予定されているパンガー県の溺死予防事業対象地域における、子どもたちの溺死事故リスクの状況に関するベースライン調査を行いました。

¹ 事業形成時の計画値。「水難に備えた泳法の訓練」を含む具体的な活動や新学校年度の開始を考慮にいれた裨益者数は現在対象校と調整中で、上掲の人数より増える見込みです。

² 国際スポーツ連盟機構(GAISF)、国際オリンピック委員会、国際ワールドゲームズ協会、国際スポーツ科学体育会議等に加盟している国際ライフセービング連盟のタイにおける代表組織。救命活動の実施・推進や水の安全に関する教育活動を含むライフセービングに寄与する活動を実施しています。

³ マヒドン大学ラマティボディ病院医学部小児科学科に置かれた研究センター。同センターは、これまで教材開発をはじめとする子どもの溺死事故予防活動に取り組んできました。

活動 1. 子どもの溺死事故のリスクと事故予防対策に向けたニーズを特定するためのワークショップの開催

1-1. 対象校の選定

連携団体である、子どもの安全推進・傷害予防研究センター(CSIP)と協力し、子どもの溺死予防への関心の高さ、プールや水泳指導教員の有無等、対象校の選定となる基準を設定して対象校を選定しました。バンコクはタイ政府の統計上、15歳以下の子どもの溺死リスクの高い地域に分類され⁴、またセーブ・ザ・チルドレンが実施したベースライン調査ではバンコクの子どもたちの水難や溺死の危険に関する認識が低いこと、溺死事故の起きる主な状況はプールを含む遊泳スペース利用時やボート遊びの機会であること、また近年では洪水時の溺死リスクが懸念されていることが指摘されました。このため、対象校の選定ではプールがあり、水泳指導にあたる教員に水難に備えた泳法に関する知識が不足している学校のキャパシティ向上を念頭に置きました。その一方で、子どもたちの参加が積極的・発展性のあるものとなるよう、2校のうち1校はこれまでに溺死予防教育に取り組んだ経験を持つ学校を選びました。その結果、過去に子どもの安全推進・傷害予防研究センター(CSIP)と溺死予防教育活動に取り組んだ経験を持つ私立の Sanbua 小学校、またプールの管理や水泳指導活動において現地での評価が高い公立の Phayathai 小学校が事業対象校に選ばれました。

活動 2. 溺死事故予防のための子ども学習会の開催

2-1. 水難に備えた泳法訓練の計画と、その実施に向けた調整

事業予算の増額により、単なる学習会ではなく、子どもたちが水難に備えた泳法を身につけるための訓練コース(講義と実技訓練)を実施することが可能となりました。1月20日から22日に対象校2校より水泳指導担当教員5人が、タイ・ライフセービング協会と子どもの安全推進・傷害予防研究センター(CSIP)が開催する、「水難に備えた泳法」に関する教員向けのワークショップに参加することになりました。その後、このワークショップに参加した教員らは、対象校の生徒たちに「水難に備えた泳法」を指導します。

活動 3. 子どもの溺死事故予防への啓発教材の製作と普及

3-1. 先行文献・資料のレビュー

ベースライン調査の実施と並行して、セーブ・ザ・チルドレンは、子どもの安全推進・傷害予防

⁴ 2004年から2013年の公衆衛生省データの平均値。SITUATION OF CHILD DROWNING IN THAILAND Suchada Gerdmongkolgan and Som Ekchaloemkiet, Bureau of Non-Communicable Diseases, Department of Disease Control, Ministry of Public Health, Thailand.
http://www.searo.who.int/entity/disabilities_injury_rehabilitation/country_experiences/situationofchilddrowning2014tha.pdf

研究センター(GSIP)と協力して、子どもの溺死や予防対策、またそれに関連する技術的文献や資料のレビューを行いました。こうして得られた知見は、子どもたちの溺死予防に向けたキー・メッセージの考案や啓発教材・メディア作成に活用されます。

3-2. 公共放送局との連携

セーブ・ザ・チルドレンは子どもの水上安全と溺死予防に関する啓発活動において、タイの公共テレビ放送局 ThaiPBS⁵と協働する予定です。当事業の活動や成果を放送番組の作成にどのように活用できるかが、今後検討されてゆく予定です。

3. 課題・変更点

3.1. 事業予算額の変更とそれに伴う活動内容の調整

貴社のご支援により実施されたインドネシア共和国「北ジャカルタの学校における防災能力向上プログラム」(2015年8月1日より2016年7月31日まで実施)では、事業完了時に余剰金197,084円が派生しました。今年度ご支援の海外事業活動費に充てるとの貴社のご意向を受け、その余剰金は当事業の「活動2：溺死事故予防のための子ども学習会の開催」に向けた現地活動費とすることになりました。これにより、当事業予算総額は当初の11,500,000円から11,697,084円に増額されました。この増額予算は、主に2節2-1で述べられた「子どもたちへの水難に備えた泳法の訓練」の実施に充てられる予定です。

この変更を反映した当事業の予算は以下の通りです。

| 項目 | 費用 |
|--|-------------|
| 活動1：子どもの溺死事故のリスクと事故予防対策のためのニーズを特定するためのワークショップの開催 | 1,086,331円 |
| 活動2：溺死事故予防のための子ども学習会の開催 | 2,451,904円 |
| 活動3：子どもの溺死事故予防への啓発教材の製作と普及 | 2,472,647円 |
| タイ人サポートスタッフ人件費 | 1,181,314円 |
| 活動運営費 車両関連費用、現地事務所サポート費、通信費、モニタリング・報告書作成費 | 2,204,887円 |
| 東京本部管理費 | 2,300,000円 |
| 合計 | 11,697,084円 |

⁵ ThaiPBSは2008年1月にタイ政府が設立した、同国初の公共放送局です。

3.2. 課題

第1四半期では、学校が9月に期末試験を実施、10月は長期休暇に入ったため、教育行政関係者や学校関係者との各種調整および対象校の選定に遅れが生じました。これに加え、10月のラーマ9世(タイ国王)の崩御を受けての政府からの服喪の指示およびその他の諸対応の影響により、政府系機関・学校関係者との会議等が中止あるいは延期され、学校における事業活動の開始に必要な調整が遅れました。

そのため、当期は民間セクターの組織との連携の模索や事業実施や教材普及に向けた内部的な体制づくり、ベースライン調査をはじめとする情報収集と整理に注力しました、今後は当事業に高い関心を寄せる対象校との密な連携体制の下、子どもたちを対象とする活動を展開してゆく予定です。

4. 今後の活動予定 (★はファミリーマート社員様の参加が可能な活動です。)

| 活動 / 年月 | 2016 | 2017 | | | | | | | |
|---|------|--------|----|--------|--------|--------|----|--------|----|
| | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 |
| バンコクと教材普及予定地域(パンガー県)におけるベースライン調査 | ✓ | | | | | | | | |
| 1. ワークショップを実施し、子どもたちを取り巻く溺死予防事故のリスクと溺死事故予防対策に向けたニーズを特定する。 | | | | | | | | | |
| 1.1 対象校の選定 | ✓ | | | | | | | | |
| 1.2 溺死事故予防にかかるニーズ特定のための子どもワークショップの開催 | | | | ★ ✓ | | | | | |
| 1.3 水難に備えた泳法に関する教員向けのワークショップ | | ★ ✓ | | | | | | | |
| 活動2：特定されたリスクとニーズに焦点を当て、溺死事故予防のための学習会を開催し、「子どもの溺死事故予防のためのキーメッセージ」を考案する。 | | | | | | | | | |
| 2.1 学習会に向けた協議 | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ |
| 2.2 溺死事故予防のための子ども学習会や水難に備えた泳法訓練の実施 | | ✓ | ✓ | ★ ✓ | ★ ✓ | | | | |
| 2.3 教員が教員向けワークショップで獲得した知見を対象校で実践に移す | | ✓ | ✓ | | | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ |
| 活動3：考案された「子どもの溺死事故予防のためのキーメッセージ」を基に、子どもの溺死事故予防のための子ども向け啓発教材を製作し、普及活動を開始する。 | | | | | | | | | |
| 3.1 「子どもの溺死事故予防のためのキーメッセージ」の考案 | | | | | ★ ✓ | ★ ✓ | | | |
| 3.2 子どもの溺死事故予防のための啓発教材の開発 | | | | | | ✓ | ✓ | ★ ✓ | |
| 3.3 上記教材の普及活動の開始 | | | | | | | | ✓ | ✓ |

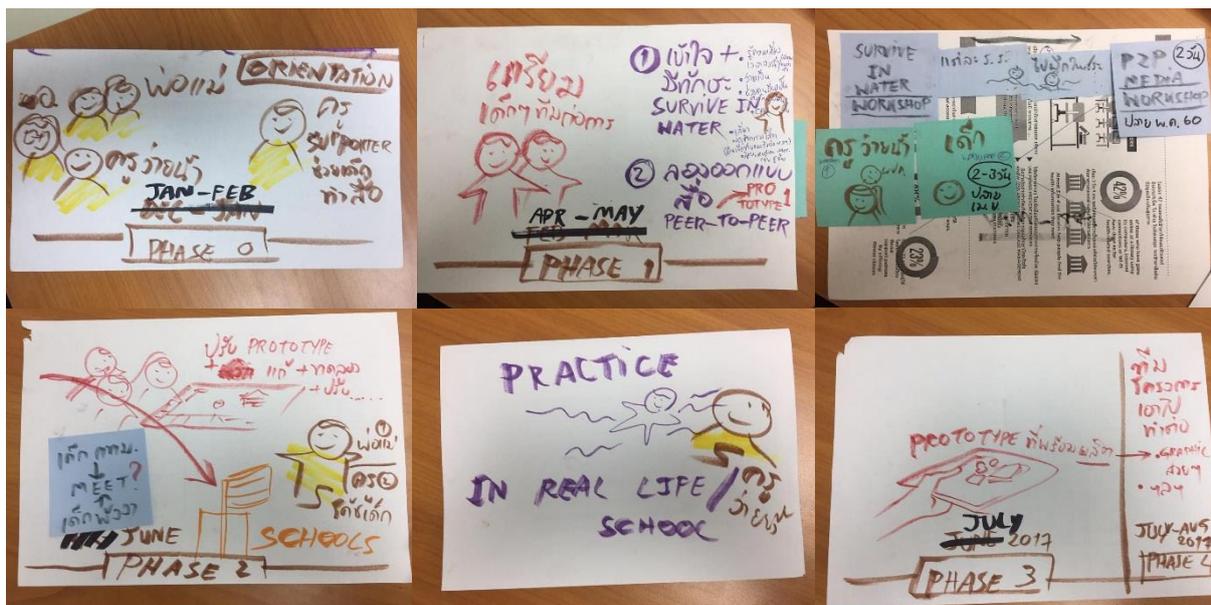
5. 活動写真



対象校に選ばれた Phanthai 小学校の教頭(中央)と水泳担当教員(右)との打ち合わせ
(2016年11月16日、同校にて撮影)



Phayathai 小学校のプール施設と水泳指導の様子
(2016年11月16日、同校にて撮影)



2016年11月18日、子どもの安全推進・傷害予防研究センター(CSIP)およびブラック・ボックス社と共に開催した、子どもの溺死予防戦略作成に向けた会議より(バンコクで撮影)

以上

別添：ベースライン調査抜粋資料